

# 四半期報告書

(第40期第3四半期)

総合商研株式会社

---

# 四半期報告書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものです。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

総合商研株式会社

# 目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	4
3 【関係会社の状況】	4
4 【従業員の状況】	4
第2 【事業の状況】	5
1 【生産、受注及び販売の状況】	5
2 【事業等のリスク】	6
3 【経営上の重要な契約等】	6
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	6
第3 【設備の状況】	9
第4 【提出会社の状況】	10
1 【株式等の状況】	10
2 【株価の推移】	11
3 【役員の状況】	11
第5 【経理の状況】	12
1 【四半期連結財務諸表】	13
2 【その他】	36
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	37

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 平成23年6月14日

【四半期会計期間】 第40期第3四半期(自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)

【会社名】 総合商研株式会社

【英訳名】 SOUGOU SHOUKEN CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 加藤 優

【本店の所在の場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【電話番号】 011(780)5677

【事務連絡者氏名】 企画管理本部課長 堀之内 弘

【最寄りの連絡場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【電話番号】 011(780)5677

【事務連絡者氏名】 企画管理本部課長 堀之内 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

# 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

### 1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第40期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日	自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日
売上高 (千円)	9,627,456	2,131,336
経常利益又は経常損失(△) (千円)	142,212	△247,904
四半期純利益 又は四半期純損失(△) (千円)	52,903	△156,718
純資産額 (千円)	—	1,743,159
総資産額 (千円)	—	6,720,129
1株当たり純資産額 (円)	—	581.85
1株当たり四半期純利益 又は四半期純損失(△) (円)	17.38	△51.96
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益 (円)	—	—
自己資本比率 (%)	—	25.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	543,322	—
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△391,770	—
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	372,328	—
現金及び現金同等物の 四期末残高 (千円)	—	1,715,325
従業員数 (人)	—	435

(注) 1 当社は第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。前第3四半期連結累計(会計)期間及び、第39期については連結財務諸表等を作成していないため、記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当第3四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、また、当第3四半期連結会計期間は1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

提出会社の経営指標等

回次	第39期 第3四半期 累計期間	第39期 第3四半期 会計期間	第39期
会計期間	自 平成21年8月1日 至 平成22年4月30日	自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日	自 平成21年8月1日 至 平成22年7月31日
売上高 (千円)	9,529,344	2,579,558	11,829,600
経常利益又は経常損失(△) (千円)	225,071	△130,851	85,500
四半期純利益 又は四半期(当期)純損失(△) (千円)	111,875	△77,009	△9,501
持分法を適用した 場合の投資損失 (千円)	20,112	6,585	22,978
資本金 (千円)	—	411,920	411,920
発行済株式総数 (株)	—	3,060,110	3,060,110
純資産額 (千円)	—	1,852,878	1,723,488
総資産額 (千円)	—	6,225,462	6,069,055
1株当たり純資産額 (円)	—	605.99	563.67
1株当たり四半期純利益又は 四半期(当期)純損失(△) (円)	36.59	△25.19	△3.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	7.00	—	15.00
自己資本比率 (%)	—	29.8	28.4
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	365,136	—	399,153
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△343,977	—	△494,904
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	45,895	—	77,063
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	—	1,237,262	1,151,521
従業員数 (人)	—	382	386

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、第39期第3四半期累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第39期第3四半期会計期間及び第39期は1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について重要な変更はありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成23年4月30日現在

従業員数(人)	435 (45)
---------	----------

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。  
2 従業員数欄の（外書）は、臨時雇用者の当第3四半期連結会計期間の平均雇用人員（1日8時間換算）であります。  
3 臨時雇用者には、季節雇用者、パートタイマーの従業員を含み、派遣社員を除いております。  
4 当第3四半期連結会計期間は、第2四半期連結会計期間に比べ臨時雇用者が286名減少しておりますが、その理由は年賀状印刷取扱期間終了による季節雇用者の減少によるものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成23年4月30日現在

従業員数(人)	422 (41)
---------	----------

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。  
2 従業員数欄の（外書）は、臨時雇用者の当第3四半期会計期間の平均雇用人員（1日8時間換算）であります。  
3 臨時雇用者には、季節雇用者、パートタイマーの従業員を含み、派遣社員を除いております。  
4 当第3四半期会計期間は、第2四半期会計期間に比べ臨時雇用者が286名減少しておりますが、その理由は年賀状印刷取扱期間終了による季節雇用者の減少によるものであります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

生産、受注及び販売の状況につきましては、以下のとおりセグメント別に記載しております。

なお、当社グループでは年賀状印刷事業については、第2四半期連結会計期間に売上が集中し、第3四半期連結会計期間はリベートの精算が中心の為、生産・受注・販売がほとんど発生しないという季節的変動があります。

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
商業印刷事業	1,660,899	—
年賀状印刷事業	△25,602	—
報告セグメント計	1,635,297	—
その他	10,736	—
合 計	1,646,033	—

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 金額は、販売価格によっております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

4 第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

#### (2) 受注実績

当第3四半期連結会計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
商業印刷事業	1,609,014	—	289,723	—
年賀状印刷事業	△25,602	—	—	—
報告セグメント計	1,583,411	—	289,723	—
その他	10,368	—	—	—
合 計	1,593,780	—	289,723	—

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	内訳	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
商業印刷事業	印刷売上	1,654,403	—
	折込売上	491,348	—
	合 計	2,145,752	—
年賀状印刷事業	印刷売上	△25,602	—
	折込売上	450	—
	合 計	△25,152	—
報告セグメント計		2,120,600	—
その他	その他売上	10,736	—
合 計		2,131,336	—

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 相手先別の販売実績が総販売実績の10%以上となる主要な販売先はありません。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

4 第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

## 2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、景気の持ち直し傾向が見られたものの、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により経済活動は混乱し、消費マインドの低下など今後の先行きは不透明さが増しております。

当社グループが位置する印刷・広告業界におきましても、東日本大震災の影響を受け、広告の手控え等、需要が減少したことに伴い、厳しい経営環境となりました。

その結果、当第3四半期連結会計期間における売上高は2,131百万円となりました。

利益につきましても、東日本大震災の影響による売上高の減少に伴い、売上総利益が減少したことから、営業損失は244百万円、経常損失は247百万円、四半期純損失は156百万円となりました。

なお、当社グループでは、第1四半期は年賀状印刷の資材・販売促進費等の先行支出により利益が低下、第2四半期は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末商戦の折込広告の大量受注により売上・利益共に増加、第3・第4四半期は年賀状印刷事業の売上がなく固定費のみが発生することにより、総体の売上高に対する経費割合が高くなり利益が低下するという季節的変動があります。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

(商業印刷事業)

商業印刷事業におきましては、東日本大震災による需要の低迷や、震災直後の計画停電などが響き、当事業の売上高は2,145百万円、営業損失は105百万円となりました。

(年賀状印刷事業)

年賀状印刷事業におきましては、リベートの精算が中心のため、売上高は△25百万円となりました。利益につきましては、固定費の負担により営業損失は69百万円となりました。

(その他)

その他におきましては、DPE、オンデマンドプリント等の商品・サービスの提供を行ってまいりましたが、売上高は10百万円、営業損失は3百万円となりました。

なお、当社は平成23年7月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期比の表示は記載しておりません。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は6,720百万円となりました。

主な内訳は、流動資産では、現金及び預金1,715百万円、受取手形及び売掛金1,392百万円、原材料及び貯蔵品270百万円であり、固定資産では、有形固定資産2,391百万円、無形固定資産116百万円、投資有価証券429百万円であります。

負債合計は4,976百万円となりました。主な内訳は、支払手形及び買掛金1,306百万円、短期借入金973百万円、長期借入金1,621百万円であります。

純資産合計は1,743百万円となりました。主な内訳は、資本金411百万円、資本剰余金441百万円、利益剰余金856百万円であります。

なお、当社は平成23年7月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期比の表示は記載しておりません。

### (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は1,715百万円となり、第2四半期連結会計期間末に比べ418百万円の減少となりました。当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は874百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失が247百万円、たな卸資産の増加が23百万円、仕入債務の減少が11百万円あったこと等により資金が減少したのに対して、売上債権の減少が771百万円、年賀はがき等の立替金の減少が374百万円、減価償却費が97百万円あったこと等により資金が増加したことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は86百万円となりました。これは主に有形・無形固定資産の取得による支出が86百万円あったこと等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1,205百万円となりました。これは短期借入金の純減額が1,400百万円、長期借入金の返済が160百万円、配当金の支払が15百万円あったこと等により資金が減少したのに対して、長期借入による収入が400百万円あったこと等により資金が増加したことによるものであります。

なお、当社は平成23年7月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期比の表示は記載しておりません。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (5) 研究開発活動

当社グループでは当第3四半期連結会計期間における研究開発活動として、連結子会社である味香り戦略研究所と共に、味覚センサーを活用したデータ分析をすすめ、味の測定・解析・比較を中心とした研究活動により、測定の基準となるデータベースの作成などを実施しており、これらは商業印刷事業における販売促進支援活動及び取引先に対する提供情報として活用しております。

以上の活動により、商業印刷事業において、当第3四半期連結会計期間における研究開発費は1百万円となりました。なお、年賀状印刷事業及びその他の事業においては特記すべき事項はありません。

### 第3 【設備の状況】

#### (1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

#### (2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年6月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,060,110	3,060,110	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利内容 になんら限定のない当社における 標準となる株式。 単元株式数は1,000株であります。
計	3,060,110	3,060,110	—	—

(注) 大阪証券取引所(JASDAQ市場)は、平成22年10月12日付で同取引所へラクレス市場及びN E O市場とともに、新たに開設された同取引所JASDAQに統合されており、同日以降の上場金融商品取引所は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)であります。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減額 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年2月1日～ 平成23年4月30日	—	3,060,110	—	411,920	—	441,153

#### (6) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

## (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年1月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

平成23年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 2,000	—	権利内容になんら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 3,052,000	3,052	同上
単元未満株式（注）	普通株式 6,110	—	1単元（1,000株）未満の株式
発行済株式総数	3,060,110	—	—
総株主の議決権	—	3,052	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式518株が含まれております。

### ② 【自己株式等】

平成23年1月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 総合商研株式会社	札幌市東区東苗穂2条3丁目 4-48	2,000	—	2,000	0.07
計	—	2,000	—	2,000	0.07

## 2 【株価の推移】

### 【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 8月	9月	10月	11月	12月	平成23年 1月	2月	3月	4月
最高(円)	323	323	306	317	340	358	326	329	349
最低(円)	280	280	280	284	300	317	317	265	319

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード) におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所（JASDAQ市場）におけるものであります。

## 3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。
- (3) 前第3四半期連結会計期間(平成22年2月1日から平成22年4月30日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年8月1日から平成22年4月30日まで)は四半期連結財務諸表を作成しておりません。そのため、前第3四半期連結会計期間(平成22年2月1日から平成22年4月30日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年8月1日から平成22年4月30日まで)に係る四半期連結損益計算書に代えて、前第3四半期会計期間(平成22年2月1日から平成22年4月30日まで)及び前第3四半期累計期間(平成21年8月1日から平成22年4月30日まで)に係る四半期損益計算書を記載しております。また、前第3四半期連結累計期間(平成21年8月1日から平成22年4月30日まで)に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書に代えて、前第3四半期累計期間(平成21年8月1日から平成22年4月30日まで)に係る四半期キャッシュ・フロー計算書を記載しております。
- (4) 前連結会計年度(平成21年8月1日から平成22年7月31日まで)は連結財務諸表を作成していないため、前連結会計年度(平成21年8月1日から平成22年7月31日まで)に係る要約連結貸借対照表に代えて、前事業年度(平成21年8月1日から平成22年7月31日まで)に係る要約貸借対照表を記載しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期会計期間(平成22年2月1日から平成22年4月30日まで)及び前第3四半期累計期間(平成21年8月1日から平成22年4月30日まで)に係る四半期財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間(平成23年2月1日から平成23年4月30日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年8月1日から平成23年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

【当第3四半期連結会計期間末】

(単位:千円)

当第3四半期連結会計期間末  
(平成23年4月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,715,325
受取手形及び売掛金	※1 1,392,391
商品及び製品	11,700
仕掛品	3,344
原材料及び貯蔵品	270,756
その他	107,537
貸倒引当金	△28,171
流動資産合計	3,472,883
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物 (純額)	751,003
土地	972,492
その他 (純額)	667,766
有形固定資産合計	※2 2,391,263
無形固定資産	
のれん	11,575
その他	105,045
無形固定資産合計	116,620
投資その他の資産	
投資有価証券	429,011
関係会社株式	20,427
その他	322,156
貸倒引当金	△32,233
投資その他の資産合計	739,362
固定資産合計	3,247,246
資産合計	6,720,129
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	※1 1,306,756
短期借入金	※3 973,591
未払法人税等	68,445
リース債務	33,629
賞与引当金	29,770
その他	360,437
流動負債合計	2,772,630
固定負債	
長期借入金	1,621,021
リース債務	101,670
資産除去債務	7,403
その他	474,245
固定負債合計	2,204,340
負債合計	4,976,970

(単位 : 千円)

当第3四半期連結会計期間末  
(平成23年4月30日)

純資産の部

株主資本

資本金	411, 920
資本剰余金	441, 153
利益剰余金	856, 132
自己株式	△22, 349
株主資本合計	1, 686, 857
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	45, 640
評価・換算差額等合計	45, 640
少数株主持分	10, 661
純資産合計	1, 743, 159
負債純資産合計	6, 720, 129

## 【前事業年度末の要約貸借対照表】

(単位：千円)

前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年7月31日)		
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	1,151,521	
受取手形及び売掛金	※1 1,434,968	
商品及び製品	12,265	
仕掛品	12,675	
原材料及び貯蔵品	269,036	
未収還付法人税等	48,159	
その他	148,863	
貸倒引当金	△33,411	
<b>流动資産合計</b>	<b>3,044,077</b>	
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	694,870	
土地	952,440	
その他（純額）	479,086	
<b>有形固定資産合計</b>	<b>※2 2,126,398</b>	
無形固定資産		
	127,529	
投資その他の資産		
投資有価証券	385,874	
関係会社株式	86,500	
その他	383,455	
貸倒引当金	△84,780	
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>771,050</b>	
<b>固定資産合計</b>	<b>3,024,978</b>	
資産合計		
	6,069,055	
<b>負債の部</b>		
流动負債		
支払手形及び買掛金	※1 1,376,188	
短期借入金	※3 832,701	
賞与引当金	19,229	
その他	※1 332,871	
<b>流动負債合計</b>	<b>2,560,990</b>	
固定負債		
長期借入金	1,306,383	
その他	478,193	
<b>固定負債合計</b>	<b>1,784,576</b>	
<b>負債合計</b>	<b>4,345,567</b>	

(単位 : 千円)

前事業年度末に係る  
要約貸借対照表  
(平成22年7月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	411,920
資本剰余金	441,153
利益剰余金	854,726
自己株式	△1,144
株主資本合計	1,706,656
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	16,831
評価・換算差額等合計	16,831
純資産合計	1,723,488
負債純資産合計	6,069,055

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【前第3四半期累計期間】

(単位：千円)

前第3四半期累計期間 (自 平成21年8月1日 至 平成22年4月30日)	
売上高	※ 9,529,344
売上原価	6,862,684
売上総利益	2,666,660
販売費及び一般管理費	
給料及び手当	912,809
貸倒引当金繰入額	73,866
賞与引当金繰入額	23,991
その他	1,425,142
販売費及び一般管理費合計	2,435,809
営業利益	230,850
営業外収益	
受取利息	56
受取配当金	2,793
受取賃貸料	21,533
作業くず売却益	10,810
その他	9,812
営業外収益合計	45,005
営業外費用	
支払利息	45,667
貸倒引当金繰入額	2,448
その他	2,668
営業外費用合計	50,784
経常利益	225,071
特別利益	
固定資産売却益	4,478
その他	40
特別利益合計	4,518
特別損失	
固定資産除却損	8,029
投資有価証券評価損	17,994
関係会社株式評価損	1,592
特別損失合計	27,615
税引前四半期純利益	201,974
法人税、住民税及び事業税	84,568
法人税等調整額	5,531
法人税等合計	90,099
四半期純利益	111,875

## 【当第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)	
売上高	※ 9,627,456
売上原価	6,817,082
売上総利益	2,810,373
販売費及び一般管理費	
給料及び手当	1,009,346
賞与引当金繰入額	24,932
その他	1,636,746
販売費及び一般管理費合計	2,671,025
営業利益	139,347
営業外収益	
受取利息	40
受取配当金	3,037
受取賃貸料	17,441
作業くず売却益	12,920
その他	23,013
営業外収益合計	56,453
営業外費用	
支払利息	44,011
持分法による投資損失	9,461
為替差損	33
その他	82
営業外費用合計	53,588
経常利益	142,212
特別利益	
固定資産売却益	1,000
貸倒引当金戻入額	4,783
その他	79
特別利益合計	5,863
特別損失	
固定資産除却損	7,476
投資有価証券評価損	243
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,287
特別損失合計	12,006
税金等調整前四半期純利益	136,069
法人税、住民税及び事業税	65,266
法人税等調整額	22,210
法人税等合計	87,476
少数株主損益調整前四半期純利益	48,592
少数株主損失(△)	△4,310
四半期純利益	52,903

## 【前第3四半期会計期間】

(単位：千円)

前第3四半期会計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)	
売上高	※ 2,579,558
売上原価	2,015,155
売上総利益	564,403
販売費及び一般管理費	
給料及び手当	283,823
貸倒引当金繰入額	6,298
賞与引当金繰入額	15,994
その他	386,005
販売費及び一般管理費合計	692,121
営業損失(△)	△127,718
営業外収益	
受取利息	19
受取賃貸料	7,216
作業くず売却益	3,849
その他	1,350
営業外収益合計	12,436
営業外費用	
支払利息	12,760
貸倒引当金繰入額	139
その他	2,668
営業外費用合計	15,568
経常損失(△)	△130,851
特別利益	
固定資産売却益	30
投資有価証券評価損戻入益	11,997
その他	40
特別利益合計	12,067
特別損失	
固定資産除却損	560
投資有価証券評価損	9,644
特別損失合計	10,204
税引前四半期純損失(△)	△128,987
法人税、住民税及び事業税	△57,739
法人税等調整額	5,761
法人税等合計	△51,977
四半期純損失(△)	△77,009

## 【当第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)	
売上高	※ 2,131,336
売上原価	1,658,453
売上総利益	472,883
販売費及び一般管理費	
給料及び手当	318,374
貸倒引当金繰入額	6,097
賞与引当金繰入額	16,621
その他	375,965
販売費及び一般管理費合計	717,059
営業損失(△)	△244,175
営業外収益	
受取利息	16
受取賃貸料	5,799
作業くず売却益	3,913
その他	3,206
営業外収益合計	12,936
営業外費用	
支払利息	11,162
持分法による投資損失	5,502
営業外費用合計	16,665
経常損失(△)	△247,904
特別利益	
固定資産売却益	1,000
特別利益合計	1,000
特別損失	
固定資産除却損	31
投資有価証券評価損	243
特別損失合計	275
税金等調整前四半期純損失(△)	△247,179
法人税、住民税及び事業税	△87,293
法人税等調整額	△2,463
法人税等合計	△89,757
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△157,422
少数株主損失(△)	△704
四半期純損失(△)	△156,718

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】  
【前第3四半期累計期間】

(単位：千円)

前第3四半期累計期間 (自 平成21年8月1日 至 平成22年4月30日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	201,974
減価償却費	294,666
受取利息及び受取配当金	△2,850
支払利息	45,667
投資有価証券評価損	17,994
関係会社株式評価損	1,592
固定資産売却損益（△は益）	△4,478
固定資産除却損	8,029
売上債権の増減額（△は増加）	△231,536
たな卸資産の増減額（△は増加）	△1,255
仕入債務の増減額（△は減少）	102,385
その他	104,352
小計	536,541
利息及び配当金の受取額	2,850
利息の支払額	△42,330
法人税等の支払額	△131,924
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>365,136</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△280,097
有形固定資産の売却による収入	28,230
無形固定資産の取得による支出	△41,049
投資有価証券の取得による支出	△35,267
差入保証金の差入による支出	△4,366
その他	△11,426
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△343,977</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入れによる収入	600,000
長期借入金の返済による支出	△513,972
配当金の支払額	△40,132
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>45,895</b>
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	67,054
現金及び現金同等物の期首残高	1,170,208
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,237,262

## 【当第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	136,069
減価償却費	266,975
のれん償却額	1,934
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△4,783
賞与引当金の増減額（△は減少）	10,540
受取利息及び受取配当金	△3,077
固定資産売却損益（△は益）	△1,000
固定資産除却損	7,476
支払利息	44,011
持分法による投資損益（△は益）	9,461
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,287
売上債権の増減額（△は増加）	52,722
たな卸資産の増減額（△は増加）	8,889
仕入債務の増減額（△は減少）	△58,447
その他	58,961
<b>小計</b>	<b>534,021</b>
利息及び配当金の受取額	3,077
利息の支払額	△44,989
法人税等の還付額	51,212
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>543,322</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△371,092
有形固定資産の売却による収入	1,895
投資有価証券の取得による支出	△10,355
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出	※2 △8,905
無形固定資産の取得による支出	△9,991
差入保証金の回収による収入	18,369
子会社株式の取得による支出	△2,340
その他	△9,350
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△391,770</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額（△は減少）	100,000
長期借入れによる収入	900,000
長期借入金の返済による支出	△544,472
リース債務の返済による支出	△23,289
少数株主からの払込みによる収入	1,300
配当金の支払額	△40,004
その他	△21,205
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>372,328</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	523,846
現金及び現金同等物の期首残高	1,151,521
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	39,958
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>※1 1,715,325</b>

【継続企業の前提に関する事項】

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)
1 連結の範囲に関する事項の変更	(1)連結の範囲の変更 第1四半期連結会計期間より、株式取得に伴い新たに連結子会社となった株式会社味香り戦略研究所及び重要性が増したプリントハウス株式会社を連結の範囲に含めております。 (2)変更後の連結子会社の数 2社
2 会計処理基準に関する事項の変更	(1)「資産除去債務に関する会計基準」等の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ261千円減少し、税金等調整前四半期純利益は4,549千円減少しております。 また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は7,289千円であります。 (2)「企業結合に関する会計基準」等の適用 第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。

なお、当社は第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は、以下のとおりです。

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)
1 連結の範囲に関する事項	<p>(1)連結子会社の数 2社</p> <p>(2)連結子会社の名称 プリントハウス株式会社 平成22年5月に当社グループの100%出資によりプリントハウス株式会社を設立しました。平成22年7月期においては、同社は設立初年度で重要性が乏しかったため、非連結子会社としておりましたが、当連結会計年度より、重要性が増したため連結の範囲に含めております。</p> <p>株式会社味香り戦略研究所 平成22年8月に株式を追加取得したことに伴い、当社の連結子会社となりました。</p> <p>(3)非連結子会社の名称等 該当事項はありません。</p>
2 持分法の適用に関する事項	<p>(1)持分法を適用した関連会社の数 2社</p> <p>(2)持分法を適用した会社の名称 株式会社プリプレス・センター、システムデザイン開発株式会社</p>
3 連結子会社の事業年度等に関する事項	連結子会社のうち、㈱味香り戦略研究所の決算日は3月31日であり、四半期連結財務諸表の作成にあたり、四半期連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。また、連結子会社のうちプリントハウス(㈱)の四半期決算日は、四半期連結決算日と一致しております。
4 会計処理基準に関する事項	<p>(1)重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>①有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>②たな卸資産 イ)商品 売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法) ロ)製品、仕掛品 個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法) ハ)原材料、貯蔵品 総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>①有形固定資産(リース資産を除く) 建物(建物附属設備を除く) イ)平成10年3月31日以前に取得したもの……旧定率法 ロ)平成10年4月1日から平成19年3月31日までに取得したもの……旧定額法 ハ)平成19年4月1日以降に取得したもの……定額法 建物以外 イ)平成19年3月31日以前に取得したもの……旧定率法 ロ)平成19年4月1日以降に取得したもの……定率法</p>

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)
4 会計処理基準に関する事項	<p>なお、取得価額10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。</p> <p>また、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物 15年～31年 機械及び装置 4年～10年</p> <p>②無形固定資産（リース資産を除く） 定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>③リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>④重要な引当金の計上基準 ①貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>②賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当第3四半期連結会計期間の負担額を計上しております。</p> <p>⑤重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は四半期決算日直物為替相場により円換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>⑥重要なヘッジ会計の方法 ①ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の要件を満たす金利スワップ取引について、特例処理を採用しております。</p> <p>②ヘッジ手段とヘッジ対象 ・ヘッジ手段 金利スワップ取引 ・ヘッジ対象 借入金利</p> <p>③ヘッジ方針 当社グループの金利スワップ取引は、借入金利の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。</p> <p>⑦その他四半期連結財務諸表作成のための重要な事項 ①特定退職金共済制度 従業員の退職金の支給に備えて当該制度に加入しており、自己都合退職による期末要支給額の100%相当額を掛金として支出しております。</p> <p>②消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p>
5 のれん及び負ののれんの償却に関する事項	のれんは、5年間の定額法により償却を行っております。
6 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、隨時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

【簡便な会計処理】

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)
1 固定資産の減価償却費の算定方法	減価償却の方法として定率法を採用している固定資産については、当連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
2 棚卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末におけるたな卸高の算出に関して、実地たな卸を省略し、前事業年度末に係る実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。
3 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目を重要なものに限定する方法によっております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに、前事業年度末からの重要な一時差異の変動を加味したものを使用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年4月30日)	
※1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、期末残高に含まれております。	受取手形 765千円 支払手形 219, 833千円
※2 有形固定資産の減価償却累計額	3, 632, 349千円
※3 当座貸越契約 運転資金の効率的な調達を行うため、当座貸越契約を締結しております。 当四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりです。	当座貸越契約の総額 3, 400, 000千円 借入実行残高 300, 000千円 差引額 3, 100, 000千円

第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度末の（四半期連結貸借対照表関係）注記は記載しておりません。

なお、前事業年度末における（貸借対照表関係）注記は次のとおりであります。

前事業年度末 (平成22年7月31日)	
※1	期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。
受取手形	869千円
支払手形	191,805千円
設備関係支払手形	14,017千円
※2	有形固定資産の減価償却累計額 3,499,040千円
※3	当座貸越契約 運転資金の効率的な調達を行うため、当座貸越契約を締結しております。 当事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりです。
当座貸越契約の総額	3,400,000千円
借入実行残高	200,000千円
差引額	3,200,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第3四半期連結累計期間の（四半期連結損益計算書関係）注記は記載しておりません。

なお、前第3四半期累計期間における（四半期損益計算書関係）注記は、次のとおりであります。

前第3四半期累計期間 (自 平成21年8月1日 至 平成22年4月30日)
---------------------------------------------

- ※ 当社では、第1四半期は年賀状印刷事業の資材・販促費等の先行支出により利益が低下、第2四半期は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末年始商戦の折込広告の大量受注により売上・利益共に増加、第3・第4四半期は年賀状印刷事業の売上がなく固定費のみ発生することにより総体の売上高に対する経費割合が高くなり利益が低下するという季節的変動があります。

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)
-----------------------------------------------

- ※ 当社グループでは、第1四半期は年賀状印刷事業の資材・販促費等の先行支出により利益が低下、第2四半期は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末年始商戦の折込広告の大量受注により売上・利益共に増加、第3・第4四半期は年賀状印刷事業の売上がなく固定費のみ発生することにより総体の売上高に対する経費割合が高くなり利益が低下するという季節的変動があります。

第3四半期連結会計期間

第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第3四半期連結会計期間の（四半期連結損益計算書関係）注記は記載しておりません。

なお、前第3四半期会計期間における（四半期損益計算書関係）注記は、次のとおりであります。

前第3四半期会計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)
---------------------------------------------

- ※ 当社では、第1四半期は年賀状印刷事業の資材・販促費等の先行支出により利益が低下、第2四半期は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末年始商戦の折込広告の大量受注により売上・利益共に増加、第3・第4四半期は年賀状印刷事業の売上がなく固定費のみ発生することにより総体の売上高に対する経費割合が高くなり利益が低下するという季節的変動があります。

当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)
-----------------------------------------------

- ※ 当社グループでは、第1四半期は年賀状印刷事業の資材・販促費等の先行支出により利益が低下、第2四半期は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末年始商戦の折込広告の大量受注により売上・利益共に増加、第3・第4四半期は年賀状印刷事業の売上がなく固定費のみ発生することにより総体の売上高に対する経費割合が高くなり利益が低下するという季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第3四半期連結累計期間の（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）注記は記載しておりません。

なお、前第3四半期累計期間における（四半期キャッシュ・フロー計算書関係）注記は次のとおりであります。

前第3四半期累計期間 (自 平成21年8月1日 至 平成22年4月30日)	
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目的金額との関係	
現金及び預金勘定	1,237,262千円
現金及び現金同等物	1,237,262千円

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)	
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目的金額との関係	
現金及び預金勘定	1,715,325千円
現金及び現金同等物	1,715,325千円
※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳 株式の取得により新たに株式会社味香り戦略研究所を連結したことによる連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出との関係は次のとおりであります。	
流動資産	80,843千円
固定資産	23,460千円
のれん	12,593千円
流動負債	△17,457千円
少数株主持分	△15,095千円
株式の取得価額	84,344千円
支配獲得時までの持分法評価額	△11,594千円
段階取得に係る差益	△79千円
追加取得した株式の取得価額	72,670千円
新規連結子会社の現金及び現金同等物	63,764千円
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	8,905千円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年4月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成22年8月1日  
至 平成23年4月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	3,060,110

2. 自己株式の種類及び株式数

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	82,518

3. 新株予約権の四半期連結会計期間末残高

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年10月28日 定時株主総会	普通株式	24,460	8	平成22年7月31日	平成22年10月29日	利益剰余金
平成23年3月14日 取締役会	普通株式	21,403	7	平成23年1月31日	平成23年4月14日	利益剰余金

(2) 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力  
発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、平成23年3月15日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて  
適用される同法156条の規定に基づき、自己株式の取得を行うことを決議し、平成23年3月16日に普通  
株式80,000株を取得いたしました。これにより、自己株式が21,200千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっています。

当社グループは、チラシを中心とした印刷物全般に関する事業を展開しており、「商業印刷事業」「年賀状印刷事業」の2つを報告セグメントとしております。

「商業印刷事業」は各種商業印刷物から販促イベントの企画、テレビコマーシャル等のマルチメディア媒体、Webサイト制作、サイン広告等の様々な販促媒体を提供しております。

「年賀状印刷事業」はスーパーやドラッグストア等の店頭で販売される名入れ年賀状及びパック年賀状のデザイン制作、印刷を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損益計算書計上額 (注3)
	商業印刷事業	年賀状印刷事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,058,059	2,531,223	9,589,283	38,173	9,627,456	—	9,627,456
セグメント間の内部売上高又は振替高	20,563	1,363	21,927	4,062	25,990	△25,990	—
計	7,078,623	2,532,586	9,611,210	42,236	9,653,446	△25,990	9,627,456
セグメント利益又は損失(△)	△187,318	538,165	350,846	△3,273	347,573	△208,225	139,347

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プリントハウス事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△208,225千円には、セグメント間取引消去3,294千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△211,520千円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損益計算書計上額 (注3)
	商業印刷事業	年賀状印刷事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,145,752	△25,152	2,120,600	10,736	2,131,336	—	2,131,336
セグメント間の内部売上高又は振替高	744	92	837	1,238	2,075	△2,075	—
計	2,146,497	△25,059	2,121,437	11,975	2,133,412	△2,075	2,131,336
セグメント損失(△)	△105,653	△69,892	△175,546	△3,450	△178,996	△65,178	△244,175

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プリントハウス事業を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額△65,178千円には、セグメント間取引消去695千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△65,873千円が含まれております。

3 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

### 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)

該当事項はありません。

#### (金融商品関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年4月30日)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前事業年度の末日と比較して著しい変動がありません。

#### (有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年4月30日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前事業年度の末日と比較して著しい変動がありません。

#### (デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年4月30日)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前事業年度の末日と比較して著しい変動がありません。

#### (持分法損益等)

第3四半期連結累計期間

前第3四半期累計期間における持分法損益等注記は以下のとおりであります。

なお、当第3四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表を作成しているため記載しておりません。

	前第3四半期累計期間 (自 平成21年8月1日 至 平成22年4月30日)
持分法を適用した場合の投資損失の金額（千円）	20,112

### 第3四半期連結会計期間

前第3四半期会計期間における持分法損益等注記は以下のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間については、四半期連結財務諸表を作成しているため記載しておりません。

	前第3四半期会計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)
関連会社に対する投資の金額（千円）	70,883
持分法を適用した場合の投資の金額（千円）	36,507
持分法を適用した場合の投資損失の金額（千円）	6,585

### (ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間（自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日）

該当事項はありません。

### (企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間（自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日）

該当事項はありません。

### (資産除去債務関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成23年4月30日）

資産除去債務の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前事業年度の末日と比較して著しい変動が認められません。

なお、第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しているため、第1四半期連結会計期間の期首における残高を前事業年度末日における残高とみなしております。

### (賃貸等不動産関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成23年4月30日）

賃貸等不動産において、前事業年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(1 株当たり情報)

1. 1 株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年4月30日)
1株当たり純資産額 581.85円

第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度末の1株当たり純資産額は記載しておりません。

なお、前事業年度末における1株当たり純資産額は次のとおりであります。

前事業年度末 (平成22年7月31日)
1株当たり純資産額 563.67円

2. 1 株当たり四半期純利益額等

第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)
1株当たり四半期純利益 17.38円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成23年4月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(千円)	52,903
普通株式に係る四半期純利益(千円)	52,903
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式の期中平均株式数(株)	3,044,116

第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第3四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益は記載しておりません。

なお、前第3四半期累計期間における1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、次のとおりであります。

前第3四半期累計期間 (自 平成21年8月1日 至 平成22年4月30日)
1株当たり四半期純利益 36.59円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	前第3四半期累計期間 (自 平成21年8月1日 至 平成22年4月30日)
四半期損益計算書上の四半期純利益(千円)	111,875
普通株式に係る四半期純利益(千円)	111,875
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式の期中平均株式数(株)	3,057,610

### 第3四半期連結会計期間

当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)	
1株当たり四半期純損失(△)	△51.96円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純損失(△)(千円)	△156,718
普通株式に係る四半期純損失(△)(千円)	△156,718
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式の期中平均株式数(株)	3,016,244

第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第3四半期連結会計期間の1株当たり四半期純利益は記載しておりません。

なお、前第3四半期会計期間における1株当たり四半期純損失及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、次のとおりであります。

前第3四半期会計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)	
1株当たり四半期純損失(△)	△25.19円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎

項目	前第3四半期会計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)
四半期損益計算書上の四半期純損失(△)(千円)	△77,009
普通株式に係る四半期純損失(△)(千円)	△77,009
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式の期中平均株式数(株)	3,057,610

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

第40期（平成22年8月1日から平成23年7月31日まで）中間配当については、平成23年3月14日開催の取締役会において、平成23年1月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- |                      |            |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額             | 21,403千円   |
| ② 1株当たりの金額           | 7円00銭      |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成23年4月14日 |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年6月11日

総合商研株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 中 島 逸 史 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 廣瀬 一雄 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている総合商研株式会社の平成21年8月1日から平成22年7月31日までの第39期事業年度の第3四半期会計期間(平成22年2月1日から平成22年4月30日まで)及び第3四半期累計期間(平成21年8月1日から平成22年4月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、総合商研株式会社の平成22年4月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年6月11日

総合商研株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

伊 島 逸 史

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

廣瀬 一雄

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている総合商研株式会社の平成21年8月1日から平成22年7月31日までの第39期事業年度の第3四半期会計期間（平成22年2月1日から平成22年4月30日まで）及び第3四半期累計期間（平成21年8月1日から平成22年4月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、総合商研株式会社の平成22年4月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年6月14日

総合商研株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 島 逸 史 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 廣瀬 一雄 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石若 保志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている総合商研株式会社の平成22年8月1日から平成23年7月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年2月1日から平成23年4月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成22年8月1日から平成23年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、総合商研株式会社及び連結子会社の平成23年4月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 平成23年6月14日

【会社名】 総合商研株式会社

【英訳名】 SOUGOU SHOUKEN CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 加藤 優

【最高財務責任者の役職氏名】 —

【本店の所在の場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役会長加藤 優は、当社の第40期第3四半期(自 平成23年2月1日 至 平成23年4月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。